



平成 26 年 9 月 18 日
海上保安庁

西之島の火山活動の状況（9月17日観測）

9月17日、羽田航空基地所属航空機（MA722 みずなぎ）により、西之島の火山活動の観測を実施した。

1. 噴火の状況

北側火口と南側火口を含んで新たに火砕丘が形成されていた。火砕丘の大きさは南北約 400m、東西約 300m である。火砕丘には火口が 3カ所南北方向に列（火口列）をなしており、火口から数 m 大の溶岩片を伴う噴煙をほぼ連続的に噴出していた。溶岩片は火口から約 100mの高さまで噴出し、噴煙は高度約 1500mに達していた。前回北側火口内に認められた溶岩マウンドは一部のみが確認され、青白色のガスを噴出していた。

火砕丘から溶岩流が北向きに流出し、北側に新たな陸地が大きく形成されるとともに旧西之島の大部分が溶岩流で覆われていた。

西之島の火山活動は引き続き活発で、今後も噴火による影響が及ぶおそれがあることから、西之島及び周辺海域（島の中心から半径 6 km の範囲）においては、付近航行船舶へ引き続き航行警報により警戒を呼びかけている。

（注）火砕丘：火山噴出物が火口の周囲に堆積してできた丘

2. 新たに形成された陸地の状況

前回と比較して、北方向に拡大していた。また、西岸から南岸、東岸にかけて波浪による浸食と思われる海岸線の後退箇所が認められた（図7参照）。

なお、同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、「前回 8 月 26 日の観測で確認された溶岩マウンドでの活動は、青白色のガス放出のみで、溶岩片を伴う活動は停止している。前回の観測から 3 週間程度の間、11 月の噴火以来最も高い高さに火砕丘を新たに形成していること、この火砕丘にできた火口列が熔融状態の溶岩片を吹き飛ばしていること、旧西之島のほとんどが溶岩流で覆われていることなどから、大量のマグマが短期間に供給され、現在も継続していると考えられる。」とのコメントが得られた。

9 月 17 日時点での形状（暫定値）

- ・東西：約 1,550 m（8 月 26 日時点 東西：約 1,550 m）
- ・南北：約 1,450 m（8 月 26 日時点 南北：約 1,250 m）
- ・面積：約 1.49 平方 km、東京ドームの約 32 倍

（8 月 26 日時点 約 1.21 平方 km、東京ドームの約 26 倍）

（参考）西之島全体の面積：約 1.56 平方 km、東京ドームの約 33 倍

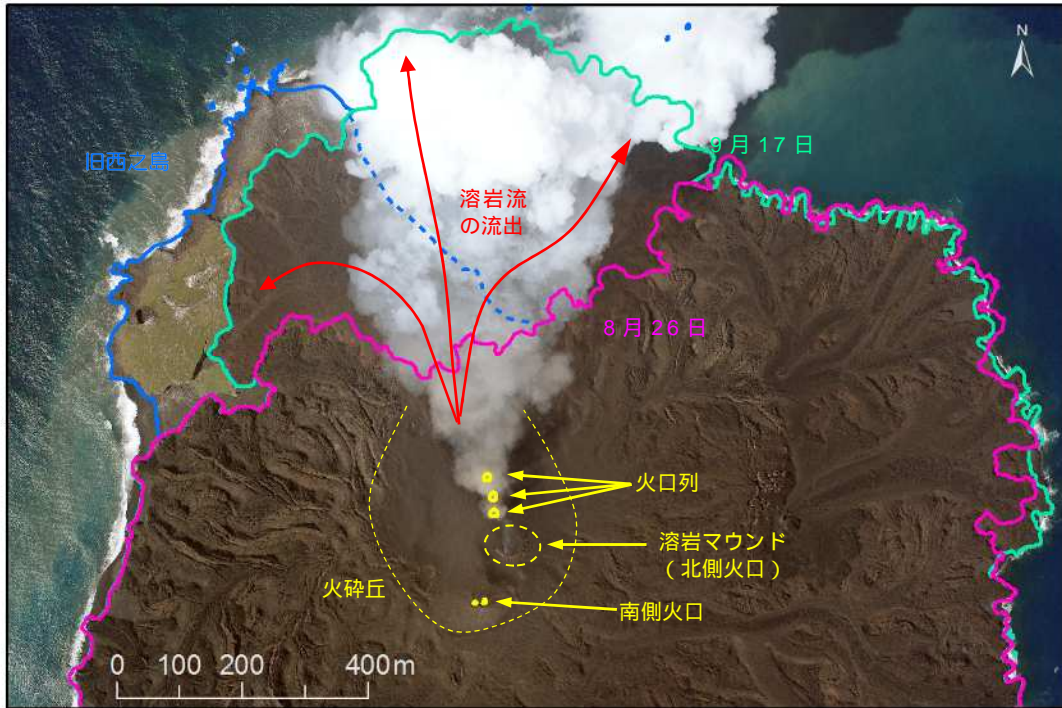


図1 火砕丘及び火口の位置（9月17日撮影）



図2 南西方向から見た西之島（9月17日撮影）



図3 火砕丘と溶岩マウンド（9月17日撮影）



図4 3ヵ所の火口（矢印）から噴煙を噴出（9月17日撮影）



図5 火砕丘の火口からの溶岩片の噴出（9月17日撮影）
（熱赤外線画像：白色ほど高温であることを示す。）

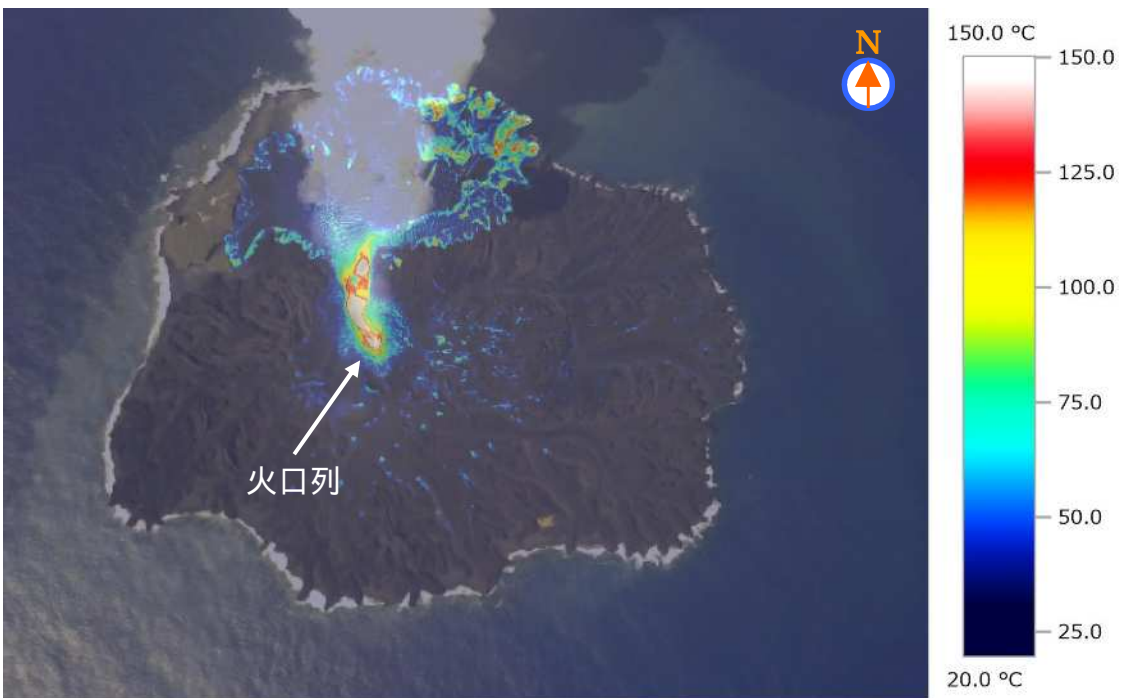


図6 熱画像の解析結果（9月17日撮影）
溶岩流が火口列から北岸方向に扇状に流れているのが確認できる。

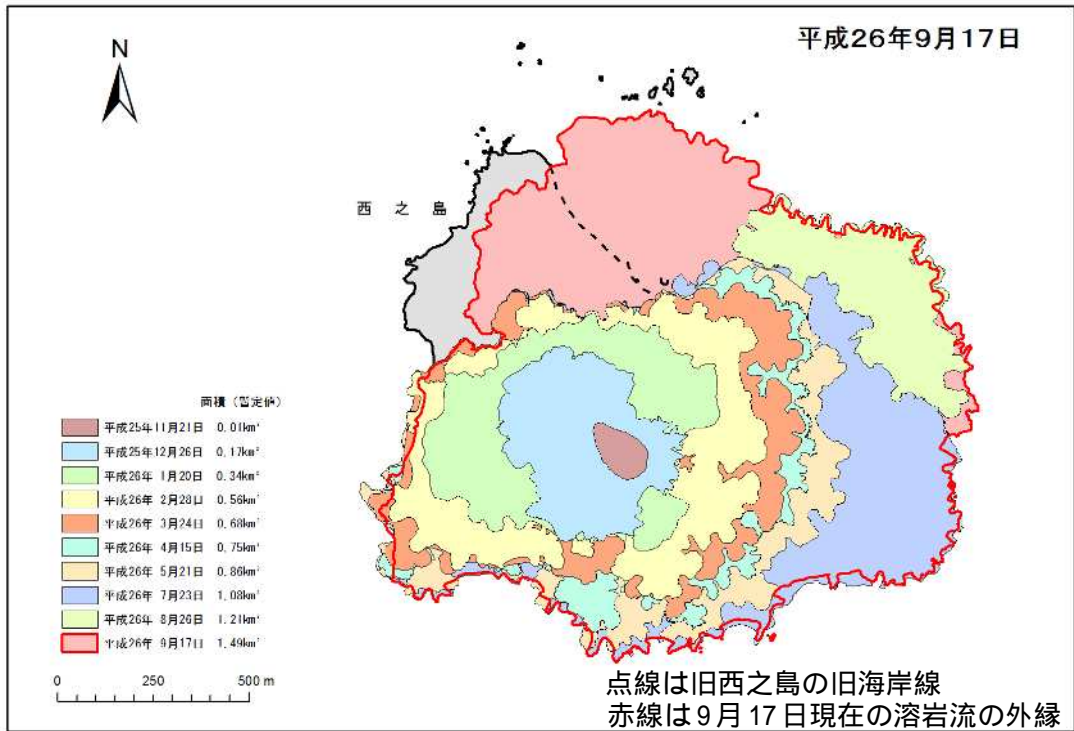


図7 新たに形成された陸地部分の形状変化の様子